

胃がん検診(胃内視鏡検査) 口または鼻から内視鏡を挿入して胃の内部を直接見る検査です。

① 予約前にご確認ください

以下に該当する方は胃内視鏡検査を受けることはできません。

なお、持病や服薬の状況(血液を固まりにくくする薬(ワーファリン、バファリンなど)を服用中の方など)によって検査をお断りすることもあります。事前に受診する検査実施機関にご相談ください。

検査が
できない方

- ①胃内視鏡検査に関するインフォームド・コンセント(説明に基づく承諾)や同意書の取得が出来ない方
- ②妊娠中または妊娠の可能性がある方 ③疾患の種類にかかわらず、入院中の方
- ④消化性潰瘍などの胃疾患で受療中の方(ヘリコバクター・ピロリ除菌中の方を含む) ⑤胃全摘術後の方
- ⑥咽頭・鼻腔などに重篤な疾患があり、内視鏡の挿入ができない方 ⑦呼吸不全のある方
- ⑧急性心筋梗塞や重篤な不整脈などの心疾患のある方 ⑨明らかな出血傾向またはその疑いのある方
- ⑩収縮期血圧が極めて高い方 ⑪全身状態が悪く、胃内視鏡検査に耐えられないと判断される方
- ⑫職場等で胃内視鏡検査を受診できる方(ただし、職場等でがんの種別により受診できない場合は、区のがん検診を受診出来ます。)



② 医療機関を予約(一覧表参照)

検査方法が経口か経鼻かをご確認ください。

医療機関によっては医療方針等により、受診条件に合致しなかったり、予約の混雑状況などから受診の予約が取れない場合がありますのでご了承ください。また、検査実施機関によっては、検査実施前に一度来院していただき検査内容の説明を受け、同意書に署名していただく場合があります。

③ 前日の注意事項

- ・検査前日の午後9時(検査開始時刻の12時間前)以降の食事はしないでください。
- ・胃の中に食べ物が残っていると、検査を途中で中断することがあります。
- ・脱水予防のため、水は飲んでもかまいません。



④ 当日の注意事項

- ・検査当日の喫煙は避けてください。前日同様に、水は飲んでもかまいません。
- ・内服が必要な薬(高血圧の薬など)は、検査の3時間前までに飲んでください。
- ・その他検査実施機関から注意事項があった場合は、その指示に従ってください。



⑤ 胃内視鏡検査を受診

- 持っていく物 ●受診券シール(はがさずに台紙のままお持ちください) ●保険証(または保険証利用登録済みのマイナンバーカード)(生活保護受給者等を除く) ●お薬手帳

当日の流れ

- ①問診→検査の概要や注意事項の説明→同意書への署名が必要になります。
※ただし、事前に検査実施機関で説明を受け、同意書に署名した場合は、②以降の流れとなります。
※当日の問診時の医師の判断で予約日当日に検査が出来ない場合や、検査を中断することがあります。
- ②前処置(胃の中の泡や粘液をとる薬を飲んだり、内視鏡の通る部分の麻酔を行います。)
- ③内視鏡検査(経口または経鼻)
※検査後、体調が優れないなど、ご心配なことがありましたら、受診した検査実施機関にご連絡ください。
- ④検査後の(仮)説明
検査当日に暫定的な所見等をお知らせすることがありますが、検査医と異なる医師が二重読影(ダブルチェック)を行います。そのため、最終結果が出るまで、約4週間程度かかります。

⑥ 検診結果を確認

二重読影(ダブルチェック)による判定後、改めて検診結果をお知らせします。(約4週間後)検査実施機関で最終結果の説明を受けてください。

最終判定	所見など	指導方針等
精密検査不要 胃がんなし	今回の検診では異常は認められませんでした。	2年に1回、定期的に検診を受けましょう。 症状が出た場合は、すみやかに医療機関を受診してください。
胃がん疑い 胃がん以外の病変	経過観察は不要です。	定期的な検診の前に保険診療による胃内視鏡検査が必要です。
	経過観察が必要です。	さらに詳しい検査が必要です。 検査実施機関で対面により医師から説明を受け、すみやかに精密検査を受けてください。(原則、検査結果の郵送はいたしません。) 胃がん疑いの判定の場合、精密検査は、胃内視鏡検査(再検査)や生検です。 ※保険診療(有料)となるため、必ず保険証をご持参ください。
胃がん 胃がん以外の病変	精密検査が必要です。	治療が必要となりますので、検査実施機関で対面により医師から説明を受け、すみやかに消化器専門医療機関を受診してください。
	治療が必要です。	

胃がん検診(胃内視鏡検査)の受診にあたっての注意事項

受診する前に

胃内視鏡検査

- ・胃内視鏡検査(胃カメラ)は、口または鼻から内視鏡を挿入し、胃の内部を撮影しながら粘膜の状態や病変を詳細に観察します。検査時間は、およそ20~30分(内視鏡の挿入は5~10分程度)で、局所麻酔などの薬剤を使用する前処置が必要となるため、当日の体調などによって、受診できない場合があります。
- ・経口か経鼻のどちらの方法で検査するかは、検診実施機関(一覧表参照)でご相談ください。
- ・経口内視鏡と経鼻内視鏡は、挿入経路と内視鏡の太さが異なります。経口は直径8~10mm、経鼻は5~6mmです。経口は、内視鏡(カメラ)が喉(舌根部)を通る時に嘔吐反射を起こすなど、苦痛を感じことがあります。経鼻は、舌根部を通らないので挿入時の嘔吐感はありませんが、鼻出血のリスクがあります。

生検 (組織診断)

内視鏡検査中に医師の判断で、必要に応じて組織の一部を採取する生検(組織診断)を行うことがあります。
その場合は、検診費用(1,000円)の他に、**保険診療として別途自己負担が発生します**。そのため、検査当日は必ず保険証をお持ちください。生検により粘膜に傷が生じるため、検査後の当日の食事は軟らかい消化の良いものを食べ、過激な運動、長湯、旅行などは避けてください。

鎮痛薬・鎮静薬

偶発症(意図せず生じる症状)のリスクを避けるために、**鎮痛薬(痛み止め)・鎮静薬(眠くなる薬)は原則使用しません**。

同意書

受診を希望される方が胃内視鏡検査の検査方法、処置、偶発症*などについて事前に説明を受け、検診実施機関が偶発症防止に注意を払うとともに、偶発症発生時には最善の対応をすることなどを理解し、胃内視鏡検査の受診に同意する趣旨で同意書を作成します。同意書に署名が無い場合は、受診いただくことができません。
※偶発症とは、内視鏡を挿入することによる出血・消化管穿孔などや、薬剤を使用したときのアナフィラキシーショックなどを指しています。

内視鏡の 洗浄・消毒

内視鏡の器具は、初めに手洗いし、その後内視鏡消毒液を用いて自動洗浄消毒機による洗浄・消毒を行っています。
検査のたびに消毒を行っているので、誰でも清潔な内視鏡で検査が受けられます。

胃内視鏡検査は、一人あたりの検査時間が長いため、検診実施機関ごとの予約数に限りがあり、希望の検診実施機関で予約が取れないことがあります。

杉並区の胃がん検診(胃内視鏡検査)は、どこの医療機関でも統一した撮影方法で胃内部を撮影し、外部機関の専門医が二重読影(ダブルチェック)をしています。予約が取れない場合は、他の検診実施機関での受診をご検討ください。また、予約数の関係上、体調不良等のやむを得ない場合を除き、**検診の当日キャンセルはお控えください**。

メモ(検査日時や、医療機関からの注意事項の記入等にご活用ください)